日本精神保健社会学会　　発行 2022年12月20日
THE JAPAN ASSOCIATION OF MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
ニュースレター第77号
発行人:宗像恒次 編集委員長:山本美奈子
事務局: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-39-8
ローズベイ池袋ビル3階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上
TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240
E-mail:murakami@t-mental.co.jp

会員の皆様、今年も残すところあと少しとなりました。今回のニュースレターは、第28回の学術大会のご報告と理事の現場からをお届けします。第28回の学術大会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大予防から、昨年に引き続き、オンラインにて開催しました。

第28回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

第28回 学術大会実行委員長 殿山 希
（国立大学法人筑波技術大学保健科学部　教授）

学術大会当日の11月23日（水）は、全国的に冷たい雨が降りしきる日となりましたが、まさにウェブ開催の明、雨風にさらされることもなく快適な学びの時を得た一日となりました。学術大会の総合司会は中嶋一恵理事（SAT情動認知行動療法研究所）により行われました。午前には、研究発表が山本美奈子理事（山形大学学士課程基盤教育機構）と服部万里子理事（服部メディカル研究所）の司会進行の下、3演題の科学研究と3演題の実践報告が口頭で行われました。研究対象は、うつの男性、小児期発症のてんかんを抱える若年者、がんサバイバー、健常の大学生、発達障害のある大学生、高齢者と多様性に満ち、研究内容も国外事情、ケア・医療、教育、地域包括支援と現代社会に必要な新しい視点での発表が揃い、大学研究室と社会、科学的理論と質の高い実践をつないで協働するという本学会らしいセッションとなりました。

午後には、宗像恒次学会会長（筑波大学名誉教授）により、学術大会のテーマである『今、

求められる社会システムの変化と課題』と題する基調講演がありました。コロナ禍で迎える3回目の学会として、一昨年・昨年と積み上げてきた個人・社会のレジリアンスを高める方策から、さらに一歩進めて社会システムの変革への課題が論じられました。顔・色・光・未来のポジティブな自己イメージ法などを用いてひらめき、連想、直感という右脳活動による知覚や判断力を促すSAT情動認知行動療法が個人のメンタルヘルスを変え（自分に自信が持てる）、さらに社会システム=「人と人とのコミュニケーションの仕方」にまで変化をもたらす（他者を信じることができる→不安・うつのような精神的不調が改善される）という可能性を学びました。

シンポジウムは、山口豊理事（東京情報大学）の司会により、コロナ禍に急速に発達した情報通信技術であるオンラインの光と影に焦点を当てて、3人のシンポジストからそれぞれの現場の実情を基に問題や話題の提起がなされました。子どもたちから家庭環境に関するLINE相談を受けている光本歩氏（NPOウィーズ）は離婚家族とその支援活動に及んだ影響を述べ、新行内勝善理事（NPO東京メンタルヘルス・スクエア）はオンライン相談の匿名性の保持やより凝縮された時間の提供等の利点に加えて当事者研究のように本人が受けた影響についても触れ、私は障害がある人や高齢者等、マイノリティが万人が幸福になれる手段であるべき技術革新から取り残される懸念を紹介しました。

その後、基調講演・シンポジウムを併せたディスカッションが行われ、参加者から多くの貴重な意見や感想をいただきました。離婚家族の父・母・子どもの見ている景色や見え方に違いがあること、高齢者や病人、障害のある人とのコミュニケーションの難しさなど、特に、対人援助職が多く集まる本学会ならではの「寄り添うこと」の難しさが議論されました。

私個人は、皆様との思惟のキャッチボールを通して、対面とスクリーンを通すコミュニケーションの違いを考え、そもそもコミュニケーションとは何なのか、言語・視覚・聴覚・触覚等々を超えて伝わる他者に注がれる思い、spiritのようなものではないかとふと感じました。学会が終わると、とても心が晴れやかになった自分を感じました。皆様ととてもよい時間を持つことができた喜びに包まれました。

閉会の辞で学会副会長武藤清栄理事は、シンポジスト新行内氏の講演にあった「自分が変わったのではなく、社会が変わった。その結果、自分が変わった」というくだりを引用して、今年のテーマにある課題と対策をまとめました。

ご参加くださった方々、また、運営に携わり学術大会の実施にご支援くださった方々に心から感謝申し上げます。来年度の学術大会こそは対面でお目にかかれましたら嬉しいです。

理事の現場から―保健教育の活性化に向けて―

上田 敏子

（愛媛大学）

愛媛大学教育学部は教員養成系大学として主に初等教育、中等教育の教員免許状の取得を目指す学部である。教育現場の実態としては、不登校の児童生徒が過去最多を記録していることや、喫煙・飲酒の経験率は低下しているものの、未成年の薬物事犯検挙者が増加しているなど憂慮すべき課題が山積している。子ども達の様々な課題に対応できる教員の養成を目指し、私は保健教育やメンタルヘルスの授業を担当している。

ところで、学習指導要領は 10 年ごとに改訂されるが、平成 29 年・30 年の改訂では、本学会と関連の深い内容が充実した。中学校の保健分野では、「欲求やストレスへの対処と心の健康」において、「ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なる」という内容が示された。「受けとめる人の心の状態」は、まさに個人の心理特性であり、そうした理解の重要性が示されたともいえる。さらに、高等学校では 40 年ぶりに精神疾患の学習内容が復活し、「精神疾患の特徴」、「精神疾患への対処」について学習する。例示として、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などが挙げられている。また、アルコール、薬物などの物質への依存症に加え、ギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖行動になる可能性があることも触れることとなった。その他、中学校の「生活習慣病などの予防」で、がんの予防が取り上げられている。高校ではさらに予防と回復について学習し、患者や周囲の人々の生活の質を保つことなど、「生き方」について学ばせる内容が盛り込まれた。このように、今回の学習指導要領の改訂では、心の健康の重要さがクローズアップされたこと、また一人ひとりの「生き方」を考えさせる内容が充実したといえる。

これまでの保健教育は、「雨降り保健」や「暗記保健」と言われるように、実践に結

びつかない知識詰め込み型の指導が多くみられた。しかしながら、社会環境が急激に変化し、心身に関する様々な情報が錯綜している現代こそ、正しい知識の習得と自他の健康に関心をもち、一人ひとりが心や身体を大切にする気持ちを育むことが大切ではないだろうか。そうしたなか、本学会の学会員の方々の様々な活動や実践から学ぶことが多い。学会を通して得た知見を新しい時代の保健教育に少しでも還元できるよう私自身が日々勉強している今日この頃である。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。**2021 年度の年会費は、2021 年 10 月 1 日**から **2022 年 9 月 30 日**の期間です。また、**2022 年度の年会費は、2022 年 10 月 1 日**から **2023 年 9 月 30 日**の期間です。既にご入金を頂きました会員の皆さま、ありがとうございました。

2020 年度、2021 年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　通常会員　5,000 円　　学生会員　3,000 円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.29」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しています。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしています。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：**2023 年 7 月 14 日（金）厳守**

●投稿規定：詳細は、本学会ホームページ

日本精神保健社会学会（www.jamhs.org）

投稿規定をご確認ください。

●送付方法および送付先

＊**郵送のみの受付になります。**

〒171-0021

東京都豊島区西池袋 2-39-8　ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上宛

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局　担当：村上
TEL: 03－3986－3220　FAX: 03－3986－3240　E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金:5,000 円

年会費:通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上)、機関会員 20,000 円

送金先:郵便振替 00170－6－613036　　加入者名 日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （ 男 ・ 女 ）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL:　　FAX:　　E-mail:		
自宅住所	〒 TEL:　　FAX:　　E-mail:		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			